小学校理科校内研修支援事業（平成29年度）

実施報告

恵庭市立恵み野小学校

＊学級数　11　＊児童数　221

支援員学校名	職名	氏名	専門分野
北海道有朋高等学校	教諭	花　輪　俊　秀	地学

【ねらい】　講師が工夫を凝らし作成した教材に触れ、教師自身が理科の楽しさを体験するとともに、日常の理科の授業改善に生かす。

【日　時】　１月31日（水）　14時30分～15時30分

【場　所】　恵庭市立恵み野小学校理科室

【参加者】　15名

【内　容】・「試験管で遊んでみよう！」
・「コップで遊んでみよう！」（演示実験）
・「ゴムピタくんで遊ぼう！」



【本事業の成果を活用した授業の改善】

本校では、支援員から学んだことを踏まえ、児童の学習意欲を高め、課題解決的な学習過程を大切にした「理科が楽しくなる教材や授業の工夫」に取り組んだ。さらに、１単位時間に対話を促す学習を意図的に設定することで、相手の考えを理解し、自分の考えを広げ、主体的、対話的に学ぶ児童の育成を図った。

１　「もののとけ方」（第５学年）

（1）指導の工夫

・導入で、児童にものを水に溶かした経験を問いかけ、身近にある水溶液について興味・関心を高める。

・実際に自分が作った水溶液を観察しながら予想を立て、実験計画を作成するよう促す。

（2）授業での児童の様子

・児童は、興味をもって予想を立て、自分の予想を確かめる方法を話し合うことができた。

・水溶液から食塩やミョウバンを取り出す実験では、温度と水の量によって溶ける量が変わることに気付くことができた。

２　「天気の変化」（第５学年）

（1）実験方法・指導の工夫（大気圧の存在を知る導入として）

・①試験管に水を入れ、厚紙で蓋をする　②厚紙で蓋をしたまま試験管を逆さまにし、ゆっくりと厚紙を引く　このような演示実験を通して、大気圧、表面張力等、自然界の力に興味をもたせる。



（2）授業での児童の様子

・目には見えない様々な自然界の力が自分たちの身の回りに存在することを知り、児童は自然科学への興味・関心を高めることができた。

・児童の学習意欲を喚起する楽しい実験を通して、理科を苦手とする児童も意欲的に学習に取り組むことができた。